

(算数・国語・体育)

言語活動の充実を通して、いきいきと活動する子どもを育てる

大阪市立小林小学校 山崎義正 池崎 薫 花岡由美子 梶原弘史

1. はじめに

本校では、「豊かな人間性をもつ小林の子どもを育てる」を教育目標とし、たくましく未来を拓く子どもの育成を目指して教育活動を進めている。

昨年度より、国語科で培ってきた能力を基本に、基礎的・基本的な学力の育成を目指し、知識・技能及び思考力・判断力・表現力等を育む基盤となる言語に関する能力の向上を図る指導研究に取り組んできた。

子どもが主体的に取り組むことができるよう、話し合いや書くことなど言語活動を充実させて基礎的・基本的な学力を身につけられるよう、指導法を工夫してきている。

また、言語活動の充実を図るための手立てとして、読書タイム、朝の会・終わりの会での話す・聞く場の設定など、授業以外での取り組みも行ってきた。

昨年度までの取り組みによって、ペアやグループなど少人数による話し合いや子どもの発達段階に応じた意見交流が活発となり、積極的にコミュニケーションを図る姿が多くみられるようになってきた。引き続き、主題に迫る研究を進めていくこととした。

2. 研究の内容

(1) めざす子ども像

- 自分で考え、分かりやすく説明できる子
- 自分の考えや意見を深めたり、広げたりできる子
- 学習したことを確かなものとする子

(2) 研究の視点

- ① 根拠をもって相手に分かりやすく伝えるための能力の育成
- ② 互いに話し合い、聞き合いながら協働して問題を解決する子どもの育成

(3) 実践例

- ・第1学年「ひきざん」(算数科)
- ・第2学年「かけ算」(算数科)
- ・第3学年「書き手のくふうを考えよう」(国語科)
- ・第4学年「自分の考えを伝え合おう」(国語科)
- ・第5学年「バスケットボール」(体育科)
- ・第6学年「プレルボール」(体育科)
- ・第5学年(平成26年度 家庭科)
- ・第6学年(平成26年度 家庭科)

3. 研究のまとめ

(1) 研究の成果

視点1：根拠をもって相手に分かりやすく伝えるための能力の育成

- 昨年度より取り組んできた本校のめざす子ども像の一つ「自分で考え、分かりやすく説明できる子」に迫る活動に重点を置いてきた中で、言語環境の整備

に取り組み、ハンドサインや話型を統一し、活用することで、自分の考えを示し、勇気を出して発表する子どもが増えてきた。さらに、話し方・聞き方の指導を徹底することで、聞く姿勢が改善され、自信をもって発表する姿が多く見られるようになった。

- 自分の考えを分かりやすく伝えるために、文章を書く際に「はっきりと伝えるように組み立てを考える」など「書く力」の観点を明確にして学習をすすめるようにした。その結果、今まで自分の考えを言葉で表現することを苦手としていた子どもが、組み立てを考えたり、根拠を示したり、接続詞を使ったりして、文章を書くことができるようになってきた。
- 算数科では手元にカードを用意したり、体育科では、動きを示すコート図とマグネットを活用したりして、子どもたちの分かりやすく伝えようという意欲を引き出すことができた。
- 音読発表会や始業式・終業式など全体発表の場、日々の学習時間でも、それぞれの目的に合わせて、聞き手に伝わりやすい表現を工夫することができた。それらの活動を通して、友だちのよいところを取り入れようとする態度が育った。
- 語彙を豊かにするために、読書習慣の定着や図書館環境の改善に取り組んできた。文章を書いたり、発表したりする際に、身につけた語彙を活用することが期待される。

視点2：互いに話し合い、聞き合いながら協働して問題を解決する子どもの育成

- 課題に即したワークシートの工夫をすることで、活発な話し合いとなり、自分の意見を述べるだけでなく、お互いの意見交流へと発展することができた。
- 身近な話題を取り上げてグループで話し合う活動することで、実感のこもった言葉で話すことができ、相手の思いを知ることができた。
- ペアやグループでの話し合いでは、話し合いのめあてを子どもたちに明確に意識させることにより、友だちの考えを聞き、新たな考えを伝え合うことができた。

(2) 今後の課題

- ペア・グループによる話し合い活動において、児童同士の交流を通して、課題解決に迫ることができるよう、さらなる言語活動の充実を図る。
- 話し合いの場面では、共感する意見だけでなく、相反する意見に光を当て、それぞれの立場を尊重しながら議論させることで、より広がる話し合い活動へと展開していく。
- 意見交流の手立てについては学年の系統性も含め、さらに継続して研究を深めていく必要がある。ペアやグループによる話し合いは、各教科を通してあらゆる学習の中に取り入れ、日常化していき、さらに活発な交流ができるように工夫していくことが必要である。
- クラスでの意見交流では、ハンドサインや話型をさらに活用できるような言語環境を整えていく。
- 指導者主導の話し合い活動から児童が自ら意見を言ったり、話し合いをつないでいったり、うまく言えない友だちの意見を分かりやすい表現に直したりして、さらに互いが向上し合えるような話し合い活動を目指していきたい。